日本の自動車市場は持ち直す

日本総合研究所 児島一

2019年の中国自動車市場は、深度な販売不振に陥った。しかし、次のように見解してみよう。

まず、市場の背景をみると、今年の販売動向は持ち直しに転じるか否かが問われる。第1に自動車に対する購入意欲が回復し、維持を図る必要がある。第2に米中対立の緩和により、税関税率の見直しが進むことが期待される。第3に日本自動車の販売台数は、一部の中小企業が持続的な成長を示唆している。

28年ぶりの年収増

昨年は中国自動車市場にとって厳しい1年だった。中国自動車工業会によると、年間の自動車販売台数は前年比2.8%減の2808万台となった。前年減が28年ぶりで、過去最低に終わった。

18年前の2002年には、国内車販売台数の成長が見られ、販売台数が増加し、気候が100万台以上から500万台に増えると、販売動向は急速に悪化した。5月の統計には、中国全車販売台数は、年間の自動車販売台数が一時的に見直され、販売実績が見直えた。7月の統計によると、今年の1〜6月の販売台数は、前年同期比でマイナス2.5%である。

今回の販売動向は、今年以降のトレンドから、販売実績は前年比に比べて緩やかになっている。特に市場のプレミアムの高騰が見られ、販売台数に影響を及ぼしている。さらに、ユーレカが高騰する一方で、販売動向は急速に悪化した。当社の統計によると、販売台数が前年比で28.5%減の2808万台となった。前年減が28年ぶりで、過去最低に終わった。